

M町における高齢者の生きがい活動の実態と今後の方向性について

生活の満足度調査による考察

In relation to actual activities leading to an active life of aged people
and the future direction of the movement in M town
— Analysis of their lives by degree of satisfaction —

金子勝司

Shoji Kaneko

要約

本研究では、地域社会における高齢者の生きがい活動に焦点をしぼり、①活動の実施の有無による生活満足度の関連 ②実施者の生活満足度の相関 ③活動の継続要因と中止要因についてなど、高齢者の生きがい活動の現状を把握し、実施率の向上や継続可能な支援システムの要因を考察する。調査対象は、宮城県のM町に在住の日常生活に支障のない65歳以上の在宅高齢者である。町の高齢者人口の5%有位抽出を行い、調査を実施した。回収率は、78.0%であった。結果、性差、年齢階層に関係なく活動の実施者が中止又は非実施者に比べ良好な結果を示しており、生活の満足度において良好な状態であることが明らかになった。後期高齢の実施者は、前期高齢の実施者に比べ数値は低いですが、全体的に高い数値を示しており、高齢になっても生きがい活動を継続して行うことが有益であることが確認された。

キーワード：生きがい活動、高齢者、生活の満足度

目次

- I 研究の動機と目的
- II 生きがいとは
- III M町の概要
- IV 研究方法
 - 1 調査対象の抽出方法・調査方法
 - 2 調査実施数
 - 3 調査票の設計
 - 1) 質問紙の項目（高齢者に対する調査）
 - 2) 回答の処理方法
- V 結果と考察
 - 1 実施する理由・継続している理由
 - 2 活動形態・実施頻度
 - 3 活動内容・場所・移動手段
 - 4 生きがい活動を中止した者の理由としなかった者の理由
 - 5 生きがい活動の実施の有無、又は中止者による生活の満足度の平均値
 - 6 生きがい活動の実施者の生活の満足度（17項目）のそれぞれの関連
 - 1) 前期男性高齢者
 - 2) 後期男性高齢者
 - 3) 前期女性高齢者
 - 4) 後期女性高齢者
- VI 参考文献

I 研究の動機と目的

今後ますます超高齢社会に突入しつつあるわが国では、高齢者の生活の質（QOL）を高め、社会の活性を維持するために、高齢者がいきいきとした機能を保ちながら社会参加することが可能な時期を延長する必要がある。また、地域によっては人口の4分の1以上を占める高齢者が、健康で生きがいをもっていきいきと活動しながら暮らし、若い世代とともに地域社会を支えていくという生き方や活動のあり方は、地域全体を活性化する上でも極めて大きな影響を与える。

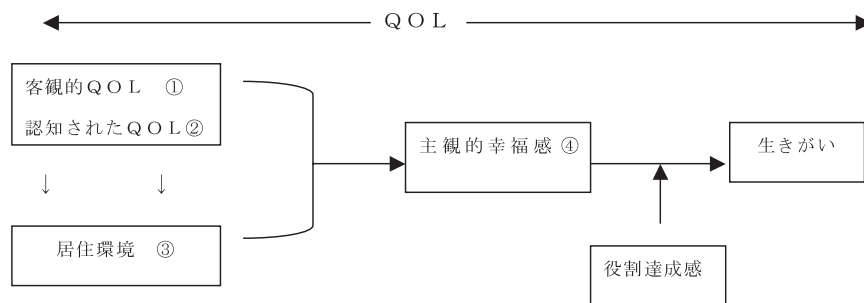
また、生きがい活動を、高齢者が単に余生を送るための活動ではなく、「第2の現役世代」として高齢者がその意欲と能力に応じて「普通に」社会とのつながりを持ち続けるための活動としてとらえるならば、それは地域の中にとしっかりと定着したとき、地域社会を支え

る活動として不可欠なものになると考えることができる。

よって、本研究では、地域社会における高齢者層の生きがい活動に焦点を絞り、①生きがい活動の実施の有無による生活満足度の関連 ②生きがい活動の実施者間による生活満足度の関連 ③生きがい活動の継続要因と中止要因についてなど、性差・年齢階層の視点から比較考察し、その地域の高齢者の生きがい活動の現状を把握し、高齢者の生きがい活動の実施率の向上や継続可能な支援システムの要因を考察する。その結果が、今後の地域の高齢者層のQOL向上に大きく寄与し、高齢者の寝たきり予防、活力ある地域社会に結びつくものとする。

II 生きがいとは

生きがいとは、生きるはりあい。生きていて良かったと思えるようなことを意味する。例えば、「(1) 仕事をして見出す」「(2) 趣味やスポーツに打ち込む」「(3) 社会奉仕活動に参加する」「(4) 生涯学習活動に参加する」などの活動。また、従来のQOLに、何か他人のためにあるいは社会のために役立っているという意識や達成感が加わったものである。



QOLの因果関係モデルと生きがいの関係（柴田1998）

III M町の概要

M町の主な産業構造による特徴は、1次産業11.5%、2次産業39.5%、3次産業49.0%であり、特用林産物の生産が盛んで、「生しいたけ」、「くり」、「木炭」などを生産し、現在も1次産業が10%を越える農業の町である。また、現在の高齢化率は、2002（平成14）年3月現在で23.1%であり、その後の推計人口をみると、2025（平成37）年には、M町33.8%になり、高齢者が町全体の3割を占めることになる。

町の主な文化政策の特徴は、M町は小京都と呼ばれ、歴史的文化遺産などを活かした、住民の参加による芸術文化活動の振興を推進している。

高齢者の生きがいづくりの推進事業として、高齢者の社会参加の促進（地域における世代間の交流により、高齢者の知識や技術の伝承に努めるとともに、地域づくりなどに活用し、高齢者の生きがいづくりを進める。また、シルバー人材センターや老人クラブなど社会交流団体への加入を進め、高齢者の社会参加を促進する）活動を実施している。

IV 研究方法

1 調査対象の抽出方法・調査方法

本研究の調査対象は、宮城県のM町に在住の日常生活に支障のない65歳以上の在宅高齢者である。町の高齢者人口の5%有位抽出を行い、調査を実施した。回収率は、78.0%であった。町における担当調査員が留置法で調査を実施し、回収は郵送法を用いた。また、それぞれの質問調査票の記入は高齢者自身が行った。調査期間は、2003（平成15）年2月上旬から2003（平成15）年3月下旬であった。

2 調査実施数

(1) サンプル数の内訳

町 (人口)	高齢者人口（寝たきりを除く）		前期 高齢者	後期 高齢者	サンプル 数	回収数 (回収率)
M町 (13,227人)	3,000人	前期高齢者 1,591人 (53%) 後期高齢者 1,409人 (47%)	80	70	150	117 (78.0)

(2) 男女比 50 : 50

(3) 年齢階層の割合 前期高齢者 (50%) : 後期高齢者 (50%)

(4) その他 本人が調査票の記入が可能であり、日常生活において自立している高齢者

3 調査票の設計

1) 質問紙の項目（高齢者に対する調査）

(1) 基本的属性（性別、居住地・年数、学歴、家族構成、等）

(2) 動の状況（活動の有無、頻度、内容、活動理由、継続・中止要因、移動手段 等）

(3) 高齢者の生活の満足度に関する質問調査（資料1）

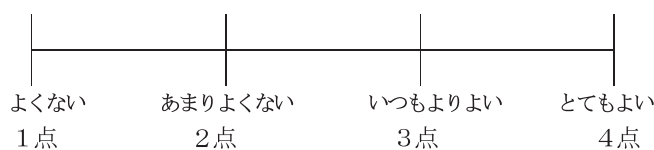
(資料1) 高齢者の生活の満足度に関する質問調査

- I. 身体的側面 (physical) として身体の健康に関するもの
 1. 最近、おいしく食事がとれていますか。
 2. 最近、十分な睡眠がとれていますか。
 3. 最近、体力に自信がありますか。
 4. 最近、手や足は思うように動きますか。また、動かそうとしていますか。
- II. 心理的側面 (mental) として関心、表情、感情の安定に関するもの
 5. 最近、楽しいことが多いですか。
 6. 最近、安心してここにいられますか。
 7. 最近、ストレスを感じることはありませんか。
 8. 最近、目標やテーマをもって生活していますか。
- III. 社会的側面 (social)・経済的側面 (economy) として対人面に関するもの
 9. 最近、趣味や娯楽にお金を使いましたか。
 10. 最近、地域の会合(集まり)に出て行きますか。
 11. 最近、よく買い物に出かけますか。
 12. 最近の余暇の過ごし方(仕事、趣味、ボランティア活動など)に満足していますか。
 13. 最近、近所の人達との付き合いは良好であるか。
 14. 最近、友人との関係に満足を感じていますか。
- IV. 家庭的側面 (family) として家族に関するもの
 15. 最近、子どもや孫との関係に満足を感じていますか。
 16. 最近、配偶者との関係に満足を感じていますか。
- V. 今後の生活設計 (life design) について
 17. 最近、今後の生活設計について満足をしていますか。

2) 回答の処理方法

17項目を用いた生活の満足度指標について質問毎に4段階のリッカートスケールを用い、重要度の順に4点から1点まで点数化をし、その平均値を求めた。本研究では、性差・年齢階層による視点から生きがい活動実施者と非実施者(活動を中止した者、全く行わなかった者)に分け、その平均値に関し比較考察を行った。

(例)1. 最近、おいしく食事がとれていますか。(あてはまるところに○をつけてください。)



V 結果と考察

1 実施する理由・継続している理由

M町の生きがい活動の実施状況を性差・年齢階層で見ると、男性61% (前期高齢者64%、後期高齢者57%)、女性66% (前期高齢者79%、後期高齢者52%)の実施率であった。その実施理由は、男性では前期、後期高齢者ともに「健康・体力維持」、「友人との交流」、「運動・ストレス解消」の順で高い数値を示した。女性では前期、後期高齢者ともに「友人との交流」の回答が最も高い数値を示し、次いで「健康・体力維持」「運動不足・スト

レス解消」などの健康面に関する理由であった（表1）。よって、男女とも、健康への意識と友人との交流が大きな理由であることが分かる。また、その活動を継続できている主な理由は、男性の前期高齢者では、「健康を維持している」、「家族の理解・協力がある」、後期高齢者は、「健康を維持している」、「好きな仲間がいる」の順で高い数値であった。女性の前期高齢者では、「家族の理解・協力がある」、「好きな仲間がいる」、後期高齢者は、「好きな仲間がいる」、「家族の理解・協力がある」の順で高い数値であった（表2）。以上の結果、男性は、年齢階層に関係なく、自身の健康に関心を示し活動しており、また、その健康を維持することが活動継続につながっていることがわかる。女性は、年齢階層に関係なく、友人との交流を主な目的とし、地域や家族の人間関係を良好な状態に保つことがその活動の継続に関連していることがわかった。また、年齢階層による違いでは、前期高齢者は、男女とも「家族の理解・協力」の回答が多いのに対し、後期高齢者は「好きな仲間がいる」の回答が多かった（表2）。このことは、今後益々増えていく老夫婦世帯や独居老人世帯に対する地域とのつながりの重要性を意味しているといえる。

表1. 実施する主な理由

男性		女性		(複数回答)			
前期高齢者 (14)	%	後期高齢者 (21)	%	前期高齢者 (19)	%	後期高齢者 (17)	%
1. 健康・体力維持	36.4	1. 健康・体力維持	66.6	1. 友人との交流	45.8	1. 友人との交流	36.4
2. 友人との交流	32.0	2. 友人との交流	33.3	2. 健康・体力維持	33.3	2. 運動不足・ストレス解消	21.2
3. 運動不足・ストレス解消	9.0	2. 運動不足・ストレス解消	33.3	3. 運動不足・ストレス解消	16.7	3. 健康・体力維持	15.6
3. 能力・技術の向上	9.0	4. その活動がすぎ	9.5	3. 家族とのふれあい	16.7	4. 運動をしたいから	6.1
3. その他	9.0	4. 家族とのふれあい	9.5	5. その活動がすぎ	12.5	4. その活動がすぎ	6.1

表2. 活動を継続できている主な理由

男性		女性		(複数回答)			
前期高齢者 (14)	%	後期高齢者 (21)	%	前期高齢者 (19)	%	後期高齢者 (17)	%
1. 健康を維持している	32.0	1. 健康を維持している	66.6	1. 家族の理解・協力がある	41.7	1. 好きな仲間がいる	30.3
1. 家族の理解・協力がある	32.0	2. 好きな仲間がいる	23.8	2. 好きな仲間がいる	38.0	1. 家族の理解・協力がある	30.3
3. 好きな仲間がいる	18.2	2. 近くに施設がある	23.8	2. 健康を維持している	38.0	3. 健康を維持している	21.2
4. 近くにクラブがある	9.0	4. 家族の理解・協力がある	19.0	4. その活動が好きだから	21.0	4. その活動が好きだから	18.2
4. 昔からやっていた活動	9.0	5. 昔からやっていた活動	14.3	5. 金銭的余裕がある	12.5	5. 金銭的余裕がある	12.1

2 活動形態・実施頻度

実施者の主な活動形態をみると、「地域のクラブに所属している」の回答が多く、男性71%（前期高齢者70%、後期高齢者72%）、女性72%（前期高齢者68%、後期高齢者76%）であった（図1）。活動形態別にその内容をみると、「地域のクラブに所属」では、男性の前期・後期高齢者ともに、ゲートボール、老人クラブ、奉仕活動等、女性の前期高齢者は、生け花、コーラス、踊り、奉仕活動、婦人会等、後期高齢者は、詠歌、コーラス、高齢者クラブ、奉仕活動等であった。また、「親しい友人との活動」では、男性の前期高齢者は、文化活動、ゲートボール等、後期高齢者が、ゲートボール、野菜づくり、庭木の手

入れ等、女性の前期高齢者は、大正琴、文化活動等、後期高齢者は、大正琴、詩吟、社会奉仕等であった。「個人的な活動」は、男性のみで、前期高齢者は庭木の手入れ、後期高齢者は文化活動、カラオケ等であった。その結果をみると、M町では、女性の文化活動を中心とした豊富な活動内容に比べると、男性は、ゲートボール、奉仕活動、老人クラブの活動と活動の種類が少ないことがわかる。また、活動の実施頻度をみると、毎週1回以上、定期的な活動実施者は、男性44%（前期高齢者50%、後期高齢者37%）、女性59%（前期高齢者64%、後期高齢者53%）であった（図2）。実施頻度別に、その活動内容をみると、毎週1回以上、定期的な活動では、男性の前期高齢者は、ゲートボール、社会奉仕活動等、後期高齢者は、ゲートボール、カラオケ、野菜作り等であった。女性の前期高齢者は、生け花、社会奉仕、ゲートボール、踊り、大正琴等、後期高齢者は、ゲートボール、コーラス、大正琴、社会奉仕等であった。反対に、実施頻度の低い（月に1～2回程度）活動内容をみると、男性の前期高齢者は、老人クラブ、庭木の手入れ等、後期高齢者は、老人クラブ、社会奉仕、庭木の手入れであった。女性の前期高齢者は、社会奉仕、文化活動、婦人会等、後期高齢者は、歌、詩吟、詠歌、社会奉仕であった。毎週1回以上の定期的な活動実施者は、男性に比べ、女性の実施率が高かった（図2）。このことは、性差の違いによる地域の活動内容の差も影響していることが考えられ、今後、男性のニーズにあった活動内容を考える必要がある。また、年齢階層の違いでみると、後期高齢者の実施率が低い。これは身体面の衰退的な影響も考えられるが、それ以外の実施頻度が低くなった要因を確認し、できる限り継続可能なシステムをつくる必要がある。また、前期高齢者の活動実施率を上げることが後期高齢者の実施率向上につながることも考えられ、定年退職前の早い段階での活動の取り組みを促進していくことが大切である。

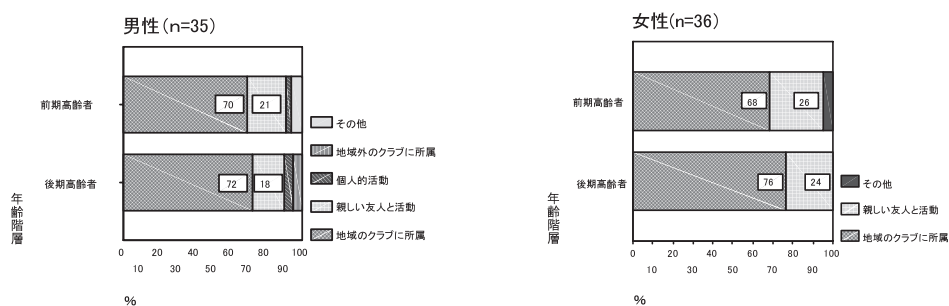


図1. 活動形態

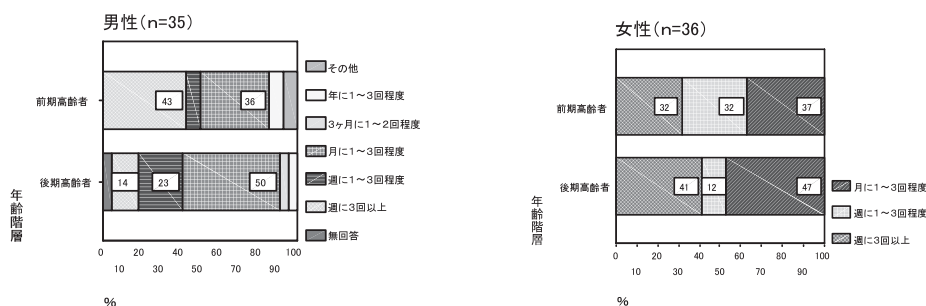


図2. 実施頻度

3 活動内容・場所・移手段

主な活動内容をみると、男性の前期高齢者では、「運動・スポーツ活動（43%）」、「老人クラブ（21%）」、後期高齢者は、「運動・スポーツ活動（45%）」、「老人クラブ（23%）」「奉仕活動・ボランティア活動（14%）」で高い実施率であった。女性の前期高齢者は、「文化活動（37%）」、「奉仕活動・ボランティア活動（26%）」、「運動・スポーツ活動（21%）」、後期高齢者は、「文化活動（29%）」、「運動・スポーツ活動（29%）」、「老人クラブ（18%）」で高い実施率であった（図3）。この結果、男性では、前期、後期高齢者ともに、「運動・スポーツ活動」が最も高い数値を示し、実施する理由（表2）でもあったように、健康に関わる活動であった。女性では、前期、後期高齢者ともに、文化的活動が高い実施率であった。その主な活動場所は、男性の前期高齢者では、「公民館（29%）」、「運動広場（26%）」、「老人福祉センター（21%）」、後期高齢者では、「運動広場（27%）」、「老人福祉センター（23%）」「公民館（18%）」であった。女性では、前期高齢者は、「公民館（47%）」、「老人福祉センター（26%）」、後期高齢者では、「運動広場（29%）」、「老人福祉センター（24%）」「公民館（18%）」であった。これは、性差、年齢階層に関係なく、多くの高齢者が地域の公共施設を利用し活動していることがわかる（図4）。その移手段は、男性の前期高齢者では、「自動車（本人の運転）（43%）」、「自転車（29%）」、「自動車（家族の運転（14%）」であり、後期高齢者は、「自動車（本人の運転）（36%）」、「自転車（27%）」、「徒歩（23%）」であった。女性の前期高齢者は、「自転車（37%）」、「徒歩（21%）」「自動車（本人の運転）（21%）」であり、後期高齢者は、「徒歩（53%）」、「自動車（家族の運転（29%）」といった結果であった（図5）。以上の結果、男性は年齢階層に関係なく、約4割の実施者が自らの運転で自動車を使用して移動している。しかし、その他の者は、自転車や徒歩などで通える範囲で活動し、主に町の公共施設等を利用した活動である。この結果を踏まえ、高齢者の活動実施率を向上させるには、移手段の支援、公共施設での高齢者に対応した活動内容の充実が望まれる。

M町における高齢者の生きがい活動の実態と今後の方向性について

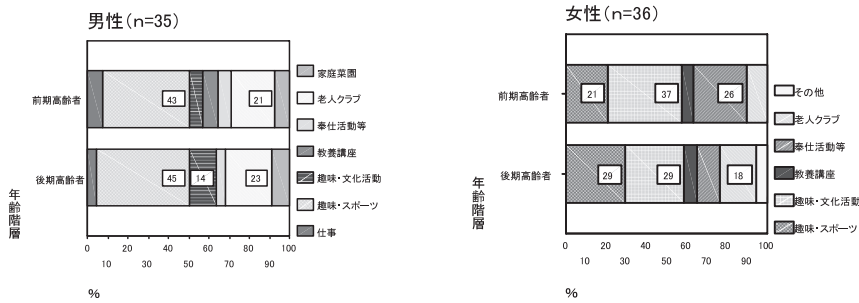


図3. 活動内容

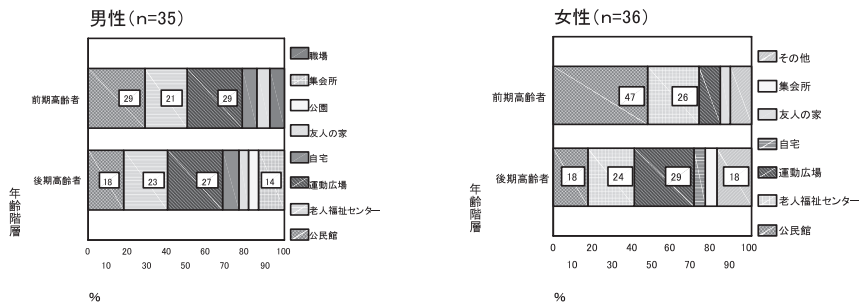


図4. 活動場所

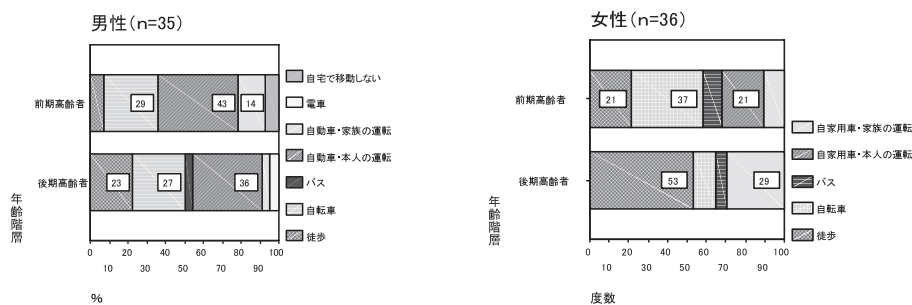


図5. 移動手段

4 生きがい活動を中止した者の理由としなかった者の理由

生きがい活動を中止した者の主な理由は、男女とも「年齢的にできなくなった」が高い数値を示し、その活動内容は、男性では農業、町内会役員、ゲートボール、民謡等、女性では、前期高齢者が仕事、農作業等、後期高齢者が踊り、ゲートボール、農業といった内容であった（表3）。「年齢的にできなくなった」の回答が、男性では、75%が後期高齢者、女性は、すべて後期高齢者の回答であった。このように年齢が高齢になるにつれて、生きがいが見出せなくなることは大きな問題であり、今後の課題として、できなくなった具体的要因を見つけ出すこと、活動の選択肢の充実や可能な限り活動をできるような支援策を考えることが重要である。また、その他の理由をみると、男性は「病気・けが」、女性では「疲れる」といった身体的な理由が上位にあることから、健康を維持することが活動に

大きく影響していることがわかる。また、男女共通した理由に「仲間がいない」といった回答が18.2%であった。過去に生きがい活動を全くしなかった者の主な理由にも、「仲間がいない」の回答が男女とも約40%の高い数値を示していることから、より多くの人と交流できる地域活動の機会をつくり出すことが重要なことだと考える（表4）。

表3. 活動を中止した主な理由

男性 (11)	%	女性 (10)	%
1. 年齢的にできなくなった	81.8	1. 年齢的にできなくなった	90.0
2. 仲間がいない	18.2	2. 仲間がいない	40.0
2. 家事が忙しい	18.2	3. 家事が忙しい	30.0
2. 特に理由なし	18.2	4. 能力的にできなくなった	20.0
5. 施設場所がない	9.0	4. 疲れる・けが、病気	20.0

表4. 過去に活動を全くしなかった主な理由

(複数回答)

男性 (13)	%	女性 (11)	%
1. 仲間がいない	46.2	1. 家事が忙しい	45.5
2. 仕事が忙しい	38.5	2. 仲間がいない	36.4
2. 時間がない	38.5	3. おっくう	18.2
4. 家事が忙しい	15.4	3. 疲れる	18.2
5. 疲れる	7.7	3. 時間がない	18.2

5 生きがい活動の実施の有無、又は中止者による生活の満足度の平均値

生活の満足度（17項目）の平均値を性差・年齢階層の違いからみると、実施者の男性3.16（前期高齢者3.21、後期高齢者3.10）、女性3.18（前期高齢者3.22、後期高齢者3.14）であり、それぞれの中止または非実施者の平均値に比べ、すべての実施者に高い数値を示した（表5）。また、実施者のそれぞれの側面の平均値をみると、男性の前期高齢者は、身体的側面（3.34）、心理的側面（3.23）、家庭的側面（3.22）、後期高齢者は、家庭的側面（3.19）、身体的側面（3.18）、今後の生活設計の側面（3.14）の順で高い数値であった。女性では、前期高齢者が、家庭的側面（3.39）、身体的側面（3.25）、経済・社会的側面（3.21）、後期高齢者は、家庭的側面（3.37）、身体的側面（3.28）、経済・社会的側面（3.09）の順で高い数値を示した。また、性差、年齢階層の違いから実施者・非実施者を比較すると、性差、年齢階層に関係なく、家庭的側面と身体的側面が高い数値を示していることから、実施する理由の表2の結果にもあったように、活動の実施には家庭内の協力や良好な関係と自身の健康状態が強く関わっていることがわかる。また、性差、年齢階層からみても活動の実施者が中止又は非実施者に比べ良好な結果を示しており、生活の満足度において良好な状態であることが明らかになった。また、後期高齢の実施者は、男女とも前期高齢の実施者に比べ数値は低かったが、全体的に高い数値を維持しており、生きがい活動を継続して行うことが高齢になっても有益であることを意味している。

M町における高齢者の生きがい活動の実態と今後の方向性について

表5 生きがい活動実践の有無、又は中止による生活の満足度との関連

(回答数)	平均値 上・標準偏差 下											
	現在活動している				過去に活動していた				全く活動していない			
	前期高齢者		後期高齢者		前期高齢者		後期高齢者		前期高齢者		後期高齢者	
項目	男(14)	女(19)	男(21)	女(17)	男(2)	女(1)	男(9)	女(9)	男(6)	女(4)	男(7)	女(7)
1. 食事が良好	3.57 0.65	3.58 0.51	3.43 0.60	3.59 0.51	4.00 0.00	4.00 .	3.33 0.50	3.33 0.71	4.00 0.00	3.00 0.82	2.86 0.90	2.43 0.54
2. 十分な睡眠	3.36 0.75	3.32 0.75	3.33 0.58	3.35 0.70	4.00 0.00	3.00 .	3.56 0.53	3.11 0.33	3.83 0.41	3.00 0.82	2.71 1.11	2.57 0.54
3. 体力に自信	3.21 0.70	2.95 0.71	3.00 0.55	2.88 0.70	3.00 0.00	3.00 .	3.00 0.50	2.67 0.87	2.83 1.16	3.00 0.82	2.43 0.54	2.29 0.49
4. 手や足の可動が良好	3.21 0.70	3.16 0.60	2.95 0.50	3.29 0.59	3.00 0.00	3.00 .	2.56 0.88	2.56 0.73	2.83 0.98	2.25 0.50	2.57 0.54	2.43 0.79
身体的側面	3.34 0.70	3.25 0.64	3.18 0.56	3.28 0.62	3.50 0.00	3.25 .	3.11 0.60	2.91 0.66	3.37 0.64	2.81 0.74	2.64 0.77	2.43 0.59
5. 楽しいことが多い	3.14 0.86	3.16 0.77	2.71 0.78	3.06 0.66	2.50 0.71	2.00 .	2.33 0.50	2.44 0.53	2.50 1.04	3.25 0.96	2.43 0.79	2.29 0.49
6. 安心していられる	3.43 0.51	3.63 0.50	3.43 0.60	3.35 0.79	3.50 0.71	3.00 .	3.33 0.50	3.22 0.83	3.67 0.52	3.00 0.82	2.57 0.54	2.71 0.49
7. ストレスがない	3.29 0.61	2.68 0.75	2.71 0.90	2.88 0.78	3.50 0.71	3.00 .	2.33 1.00	2.67 0.71	3.50 0.84	2.50 0.58	2.29 0.49	2.14 0.38
8. 目標・テーマ	3.07 0.73	3.00 0.58	2.90 0.44	2.94 0.75	3.00 0.00	3.00 .	2.89 0.60	2.67 0.71	2.83 0.98	2.50 1.00	2.29 0.49	2.43 0.54
心理的側面	3.23 0.68	3.12 0.65	2.94 0.68	3.06 0.74	3.13 0.53	2.75 .	2.72 0.65	2.75 0.69	3.12 0.84	2.81 0.84	2.39 0.57	2.39 0.47
9. 趣味や娯楽の支出	3.07 0.48	2.95 0.78	2.81 0.68	2.71 0.85	3.00 0.00	2.00 .	2.67 0.71	2.78 0.44	2.67 0.82	2.75 0.50	2.43 0.54	2.29 0.49
10. 地域の会合に参加	3.43 0.51	3.37 0.76	3.29 0.64	3.12 0.70	3.50 0.71	2.00 .	3.00 0.87	2.67 0.87	2.83 0.98	3.00 0.00	2.14 0.69	2.29 0.49
11. 買い物	3.21 0.43	3.11 0.66	2.71 0.90	2.94 0.66	3.50 0.71	2.00 .	2.67 0.71	3.22 0.67	3.00 0.89	3.00 0.82	2.29 0.95	2.71 0.49
12. 余暇の過ごし方	3.21 0.58	3.16 0.60	2.90 0.70	2.88 0.70	2.50 0.71	2.00 .	3.00 0.50	2.67 0.71	2.67 0.82	2.25 0.50	2.00 0.00	2.29 0.49
13. 近所付き合い	3.07 0.73	3.26 0.73	3.10 0.70	3.41 0.51	3.50 0.71	3.00 .	3.44 0.53	3.33 0.71	3.50 0.55	3.25 0.50	2.57 0.79	3.00 0.82
14. 友人との関係	3.21 0.58	3.42 0.61	3.38 0.59	3.47 0.51	3.00 0.00	3.00 .	3.22 0.44	3.22 0.67	3.50 0.55	3.25 0.50	2.71 0.76	3.00 0.82
経済的・社会的側面	3.20 0.55	3.21 0.69	3.03 0.70	3.09 0.65	3.16 0.47	2.33 .	3.00 0.62	2.98 0.68	3.02 0.77	2.91 0.47	2.35 0.62	2.59 0.60
15. 子供、孫との関係	3.14 0.54	3.53 0.51	3.24 0.54	3.63 0.50	3.50 0.71	2.00 .	3.33 0.71	3.56 0.53	3.50 0.84	3.25 0.96	3.00 0.82	3.14 0.69
16. 配偶者との関係	3.29 0.47	3.24 0.66	3.14 0.66	3.11 0.60	3.00 0.00	3.00 .	3.00 0.71	3.13 0.64	3.17 0.75	3.50 0.58	2.20 0.84	2.83 0.75
家庭的側面	3.22 0.50	3.39 0.59	3.19 0.60	3.37 0.55	3.25 0.35	2.50 .	3.16 0.71	3.34 0.58	3.33 0.80	3.37 0.77	2.60 0.83	2.98 0.72
17. 今後の生活設計	3.07 0.27	3.11 0.66	3.14 0.36	2.88 0.86	3.00 0.00	2.00 .	3.00 0.71	3.00 0.50	3.00 1.26	2.50 0.58	2.29 0.49	2.57 0.54
生活設計の側面	3.07 0.27	3.11 0.66	3.14 0.36	2.88 0.86	3.00 0.00	2.00 .	3.00 0.71	3.00 0.50	3.00 1.26	2.50 0.58	2.29 0.49	2.57 0.54

男性の後期高齢者では、地域の活動に関わることや趣味や娯楽などを通じた余暇時間の有効利用が、目標やテーマを持つ生活に強く関連している（図7）。また、体力を維持することが、楽しいと思える生活、又は日常生活を安心して暮らせることに関連している。これは、基礎生活において大切な要素であり、地域の関わり持つことと同様に、体力を維持することが重要でありそのような取り組みが必要となる。また、趣味や娯楽の支出の項目に、健康面に関する項目や余暇時間の過ごし方、目標・テーマを持つ生活と関連していることから、健康を維持することが、趣味や娯楽的活動を通じた余暇生活の充実に結びついていることがわかる。

3) 前期女性高齢者

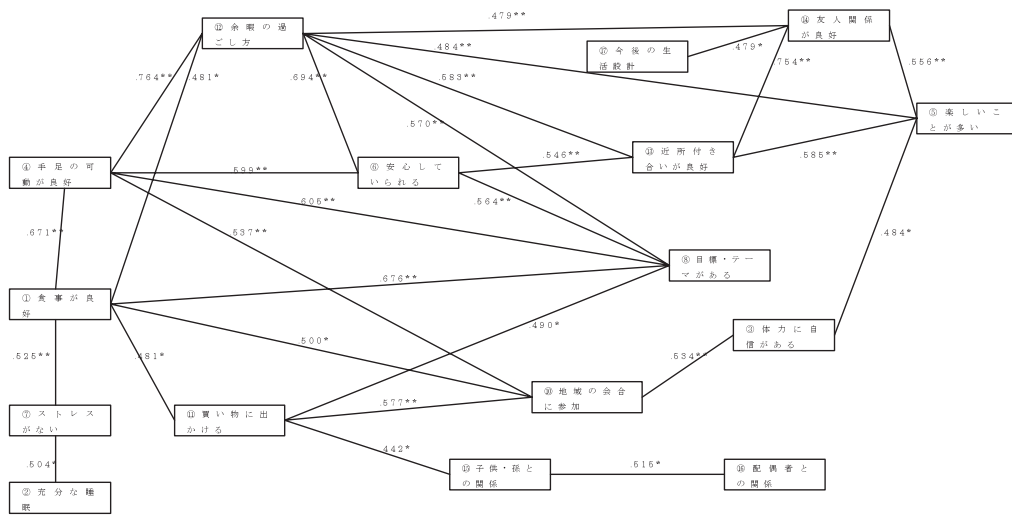


図8. 村田町の活動実施者の相関図（女性前期高齢者）

女性の前期高齢者では、手足の可動を良好な状態に保ち、基礎生活を安定させ、地域の人間関係を良好な状態にすることが余暇の過ごし方に満足感を与え、生活満足度に重要であることがわかった。また、そのことが日頃の生活に目標やテーマを持つことに関連し、生活のハリを持つことにつながっていることが確認された（図8）。

4) 後期女性高齢者

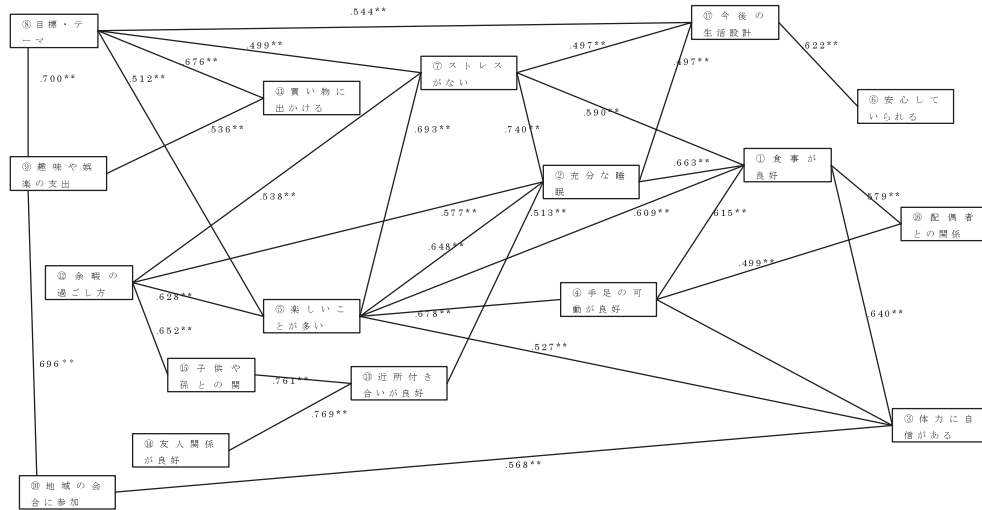


図9. 村田町の活動実施者の相関図 (女性後期高齢者)

女性の後期高齢者では、自身の手足の可動を良好に保つことや、余暇の過ごし方が良好な状態であることと関連している。また、十分な睡眠や食事などの基礎生活を良好な状態に保つことが、ストレスの軽減に結びつき生活の満足度に大きく関わっていることが分かる。その他、多くの項目と相関があった「ストレス」や「十分な睡眠」、「楽しいことが多い生活」などの項目に共通して、「余暇の過ごし方」の項目に関連があることから、趣味や娯楽などを通じた活動が生活満足度に結びつくことがわかる (図9)。

VI 結果・考察

生きがい活動における生活の満足度 17 項目の平均値をみると、性差、年齢階層に関係なくすべての活動の実施者が中止又は非実施者に比べ良好な結果を示しており、生活の満足度において良好な状態であることが明らかになった。また、男女とも後期高齢の実施者は、前期高齢の実施者に比べ数値は低い、非実施者に比べ全体的に高い数値を維持しており、生きがい活動を継続して行うことが高齢になっても有益であることを意味している。

生きがい活動実施者の活動をする理由は、男女とも、健康への意識と友人との交流が大きな理由であった。また、年齢階層による違いで前期高齢者は、男女とも「家族の理解・協力」、後期高齢者は「好きな仲間がいる」が高い数値を示した。このことは、今後益々増えていく老夫婦世帯や独居老人世帯に対する地域とのつながりの重要性を意味している。活動形態は「地域のクラブに所属している」の回答が、最も高い数値を示した。しかし、その地域のクラブ活動の内容は、女性の文化活動を中心としたものが多く、男性の活動の種類は少ない。また、活動の実施頻度をみると、女性の実施率が高かった。この結果

は、地域の活動内容が影響していることも考えられ、男性のニーズにこたえる活動を町は早急に取りかかる必要がある。また前期高齢者の活動実施率を向上させることが後期高齢者の実施率につながることから、町は定年退職前の早い段階から活動の取り組みを奨励していくことが重要である。

そのためには、実施者の生活の満足度（17項目）指標のそれぞれの関連で得た結果をもとに、性差・年齢階層の違い等から、活動促進のあり方を考えていくことが大切であり、そうした取り組みが町の生きがい活動の発展に大きく寄与することが考えられる。

また、今後の支援策として、研究の目的でも述べたが高齢者の生きがい活動を、高齢者が単に余生を送るための活動とだけ考えるのではなく、その意欲と能力に応じて社会とのつながりを持ち続けるための社会参加・社会貢献の場としてまちづくりを考えていく必要がある。

VI 参考文献

- 1) 長島紀一、内藤佳津雄（1999）生きがいのある老年期のライフスタイル—主観的 Qol 指標による検討—：日本大学心理学研究、20、1－8.
- 2) 崎原盛造、ユキン、芳賀博、等（1999年5月）：「地域高齢者の社会活動参加とその関連要因」、第25回に本保健医療社会学会大会、東京 資料
- 3) 中山健・川西正志（2002年6月）：社会的支援と社会的ネットワークとが高齢者の身体活動実施に与える影響に関する研究、スポーツ社会学研究第10号、pp72－85
- 4) 野田正弘・出村慎一（2001年6月）：在宅高齢者における生活満足度の特徴：性差、年代差および生活満足度相互の関連、体育学研究 46、pp257－267
- 5) 高橋勇悦・和田修一編（2001年3月）：生きがいの社会学 高齢社会における幸福とは何か、弘文堂、pp217－239.
- 6) 千葉和夫代表（1988年4月）：老人保健健康増進事業による研究報告、高齢者の生きがい対策に関する調査研究、pp1－7.
- 7) 千葉和夫代表（1988年4月）：老人保健健康増進事業による研究報告、pp49－52. 高齢者の生きがい対策に関する調査研究、pp15－34.
- 8) 柴田 博（1998年3月）：サクセスフル・エイジング、東京都老人総合研究所
- 9) QOL 評価法マニュアル 評価の現状と展望 萬代 隆 インターメディカ、426－441.
- 10) 平成12年度 国勢調査 総務省統計局
- 11) 統計で見る市町村のすがた 2002 総務省統計局
- 12) 松井一麿（1996）：「生涯学習の推進に関わる地方自治体の責任領域と事業展開」、地方教育行政研究会、平成6・7年度科学研究費一般研究（C）、研究成果報告書、pp9－17.